

平成 22 年度

事業所名 : グループホーム さくらつつみ

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390200137		
法人名	株式会社 介護施設えくぼ		
事業所名	グループホームさくらつつみ		
所在地	〒027-0036 岩手県宮古市田鎖第5地割33-4		
自己評価作成日	平成22年6月30日	評価結果市町村受理日	平成22年10月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www2.iwate-silverz.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0390200137&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成22年7月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・当施設は、小規模多機能と併設しており、行事等を通じ他者との交流の場が確保できている。 ・利用者は自宅にいるときと同じように、ゆったりと穏やかに過ごしている。 ・近隣にはさくらつつみ公園があり、散歩コースとなっている。 ・音楽療法やアニマルセラピーを取り入れ、心身への刺激、自己表現できる場を提供している。 ・地域住民との交流も行い、地域にも浸透しつつある。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>愛をもって接し、・アイ(目)をもって笑顔で見守り、・会いをもって触れ合うことを理念として定めており、利用者への挨拶や握手等により親しみを高め、安心と平穏な介護に努めている。また地域に開かれ、地域に根ざした事業所を目指し、近隣住民との対話や関係機関への連携を広げ、地域における認知症高齢者支援活動の理解を得て、民謡、踊り、音楽療法ボランティア、研修生などを受け入れたり、折々の農作物等の提供を受けたりと交流の幅を広げることにより、利用者の日々の生活に喜びと張り合いが生まれている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

【評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会】

事業所名 : グループホーム さくらつつみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	人生の先輩であることを肝に命じ、言葉ひとつに対しても敬う気持で接するよう心がけている。地域の皆様と共に愛し愛され、感謝の気持ちを忘れずに地域に溶け込んでいくようにしています。	その人らしい暮らしへの支援、地域に開かれた事業所を目指し、ホームの理念・意義と役割等を話し合いながら、全職員で理念を作り上げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所は少ない軒数であるが、皆様に温かく見守られ、畑仕事、苗提供等、事業所のために協力して下さいます。地区、学校行事も招待いただき参加しております。催し物がある時には、招待し交流しております。	近隣住民の理解と信頼に支えられながら、耕作地の提供や作付け、除草援助、季節野菜等の差し入れ、災害協力、駐車場の提供、散歩時の挨拶や立ち話、学校行事への参加等々交流の広がりや繋がりに努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特に地域貢献していないが、地域の方々が交流を通じ、認知症であることを理解され、見守りして下さっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	情報を伝達し、共有している。委員からも積極的に助言をいただき、反映させていただいている。	会議では利用者状況のほか、避難訓練や研修の報告などを行っている。秋祭りへの参加、砂利道の補修などの環境整備等についても話題提起をしながら、地域や関係機関に働きかけている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	困難事例など、相談・助言いただいている。	市担当課に赴いて、アルコール依存症状や不穏症状などへの対応について相談やアドバイスを頂いているが、今後は運営等についての相談や広報を届けるなど連携を深めていきたいとしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ほとんどの利用者様が落ち着いて過ごされておりますが、不穏な時は散歩や外出を行い、拘束はしないように努めております。	不穏行動のある利用者はいいたが、声がけや馴染みの場への散策誘導を繰り返し、現在では落ち着きを取り戻している。拘束禁止を合言葉にするだけでなく、ケアへ反映されるような研修に取り組みたいとしている。	ケアにおける具体的場面を想定した研修を行うなど、より職員間で共通理解が深まるような取り組みを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての勉強会は前年度は行っていない。今年度は研修に取り入れていきたいと思う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度権利擁護成年後見人制度について学ぶ機会はなかった。 制度利用につながったケースはなかった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明を行って同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、要望は「ご飯が多い、少ない」等個別に取り組みは行っている。訪問時、要望等お聞きするが、本人、家族からの要望はあまりない。	家族が気がかりなことや、希望や意見を職員に伝えたり相談ができるよう、相談窓口を設置しているほか、訪問や家族面談には意向等の把握に努めている。なお本人の暮らしの様子等は、定期的に伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に業務ミーティングで意見が出されている。話す方は一部に限られている。意見すべてを反映することはできていない。	ミーティングなどで職員から提案や意見が出され、勤務シフトの作成・変更、研修、テーブルの配置換え、おやつ作りなどについて検討したうえで実施や運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場スタッフの努力、勤務状況を概ね把握している。可能な範囲で要望に応えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の回数は多いとは言えないが、機会を確保している。 職員の個々の個性やケアの実際は把握できている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修受入れを行っており、資質向上に努めている。管理者は同業者へ出向いたり、電話でわからない所を教え合い、交流をしている。職員が出向いての研修機会は多いとはいえない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用導入前後はまずは本人が安心できるよう、笑顔で対応し、信頼関係を築けるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記同		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	導入時の見極めは不十分かもしれませんが可能な限り支援対応している(見守りの中、安全過ごすことができる)ことが家族の大前提であるように思われます。対応しているうちに、見えてくるものもたくさんあります。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	寄り添う気持ちを忘れず、傾聴したり、相手の気持ちになって家族の一員として、日々の生活を過ごしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人を不穏にさせないために家族と情報共有して本人を支えています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの理髪店や地域の店、念仏に出かけたリドライブで自宅周辺をとるようになっています。	盆、正月への帰省や孫、ひ孫等の面会受け入れのほか、隣近所のお年寄りが気楽に訪れている。また、四季折々にはドライブを兼ね、浄土ヶ浜や山田湾などを巡り、思い出話に花を咲かせている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	趣味活動、レクへの参加、ホール内でも利用者が同じく楽しんでいただけるよう努力している。 座席の配慮、声掛け、傾聴に心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院や終了した方に対しても訪問や電話で、その後の様子をお聞きし、相談している方もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人本意の意向を言える方は少なく、家族の意向と本人に必要なと思われることを支援している。	センター方式にも学び、利用者の個々の特徴や変化を具体的に記録しており、その人らしさを見つけ、本人の希望や意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を知ることや、馴染みの暮らし方を本人及び家族自体も分からないことが多く、不十分かも知れない。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの日々の体調観察、職員の情報の共有を行い、できることは自分で行うようにしている。(寝ていたい方はいつまでも寝ているので適宜起床を促しレベル低下を防ぐことも必要)		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的カンファレンスを実施している。課題にそって支援している。	アセスメント、モニタリングで得た課題について、本人の目標が立てられおり、一人ひとりの生活特性を活かす介護計画が作成され、適切な時期に見直しがなされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や連絡ノートで情報の共有をしながら支援に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、家族からの要望に対して可能な限り柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	田舎といった自然環境を活かし散歩、花見、紅葉を近所の方と犬を連れて散歩したり、ADL自立の利用者には一緒に畑仕事を行っている。出身地域が点在しており、すべての利用者が馴染みの地域資源を活用できてはいない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用前から継続して通院しているところから主治医となっている方が多く、利用中の心身状況等情報提供を行っている。	かかりつけ医を継続し、受診や通院には職員が同行している。利用者の症状や生活状況の情報を提供し、医師の説明や治療内容等はその都度家族に連絡して、円滑な受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職と看護職の連携はできており、体調の変化にも適切に対応できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、病院訪問し、病棟看護師、関係者との相談、電話連絡をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の取組実践はまだない。「終末期は病院入院したい」と家族は話しているが、希望あれば施設で看取ることの同意は希望家族からは得ている。	利用開始時に家族の意向や希望を聞き取り、同意書をとっているが、今後予想される重度化、終末期への対応に向けた研修やマニュアル作成が課題となっている。	重度化や終末期の対応について研修や対応マニュアル等の作成を通して、事業所としてできることや医療機関との連携等支援の在り方を検討することを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ほとんどのスタッフが心肺蘇生法や救急要請の訓練を受けているが、応急手当に関して定期的には行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時に近隣の緊急時連絡先の依頼を行っている。一緒に避難訓練に参加していただいている。	火災や災害時の対応のため職員の役割を決めており、火災報知機や消火器操作訓練を実施するほか、地域との連絡網を活用した避難訓練、「おんぶ紐」による救出訓練の実施など、住民の協力体制も得られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は個々の利用者によって言葉づかいをしており誇りやプライバシーを損ねないように気をつけている。	幼児語や「ちょっと待って」などを禁句として いるほか、失禁の対応などは人目につかない ように行い、誇りを傷つけないように配慮 するとともに、羞恥心に配慮した言葉かけや 対応を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	通院帰りなど、本人が食べたいものを食べたり、日常生活では利用者に希望をとり、おやつ作りを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	現状、本人の過ごし方を自身が理解できなく、ある程度職員誘導が必要であり、寝たきりにさせないように支援している。居場所等は本人希望の場所としている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分の好きな服を選んでもらったり、洗顔後の化粧をしたりと、本人の出来る方はおこなっている。本人が出来ない方には職員がコーディネートして着用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	開所当初は一緒に食事作りや茶わん洗いを 行っていたが、感染症対策から、食材の筋、へた取り、下膳、配膳など安全な面では行っている。ゆったりとした雰囲気の中職員一緒に食事をとっている。	現在、利用者が直接に調理に携わることはなく、配膳や下げ膳、食卓拭き程度に留めている。摂取に問題のある方には、刻み食や副食との組み合わせ等をアドバイスしながら、職員も一緒に伴食している。	感染症罹患者の経緯もあり、慎重な対応となっているが、好みや季節の食材で献立や調理を楽しんでいたことを思うとき、利用者の力を活かす工夫を期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	普通食での摂取が難しい方には刻み、おかずを残す利用者にはご飯の上におかずをのせて摂取していただくようにしている。水分量に関してはお茶の苦手な方には、牛乳、ココア、レモンティーなど好みに応じて補給、水分不足にならないようにチェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自分で口腔清掃できる方にはして頂き、汚れが残っている場合は職員が手をかしている。自分で出来ない方には職員が義歯洗浄おこない、うがいをさせていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員が声掛けをおこない、排泄チェック表を使いながら時間で誘導している。パットに排尿がないように一人、一人にあった排泄パターンをみつけるように支援している。	声掛けや誘導の間隔を把握しながら、早めの対応でトイレ誘導を行い、自立への改善を図っている。工夫された車椅子対応型のトイレもあり、プライバシーに配慮されたカーテンも取り付けられている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便コントロールのため服薬調整や食べ物について(牛乳、リンゴジュース)等の指示を看護師よりいただき実施している。便秘にならない体操などを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の日には職員で決めており、1日おきの入浴が現状である。汚したときなどは、そのつど入浴はしている。最後湯が良い方には希望とおりにしている。	本人の希望を活かしながら、ゆったり気分で楽しめるような対応となっている。特に、機械浴対応には、やさしい言葉がけで利用者が安心して入浴できるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ベット、布団等生活習慣により好きな形態で就寝している。休みたい時は自由に休ませているが、判断能力に欠ける方には様子を見ながら職員が配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師の指示のもと服薬しており、日常生活の中で利用者の観察を行い症状の変化など確認に努めている。個々の薬の目的、副作用に関しても薬の説明書を読み理解に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	作業が好きな利用者には洗濯たたみ、畑の仕事、役割をもっていただいている。生活歴に関しては本人はもとより、家族も分からないことが多く、話題の中から拾い集めている方もおります。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望を言うことはないが、不穏状態を把握した時は天候をみて個別に散歩に出たり、買い物同行している。全体では行きたい所の希望をとり、ドライブしたり季節ごとの風物を見に出かけている。	職員が飼っている犬を連れて散歩したり、畑作の観察散策など、自然に恵まれた周辺環境のなか日常的に外出している。また、季節観光のほか、ドライブを兼ねての買物、生家の近くやなじみの場所を巡る機会には、思い出話や話題を生むような機会となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物や通院時には本人に会計をさせるように支援している。100円ショップでは好きなものを数点買うなどの支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	全員ではないが、自ら電話をかけたり、手紙のやりとりをしている方もある。。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を生けたり、カーテンや椅子、スリッパ等、ピンク色で統一したり、常に音楽を流している。 幼児っぽい飾り付けはしないようにしている。	2階故の自然光が心地よく、折々の自然の変化を楽しめるほか、対面式のキッチンからは各居室が見とおせ、途切れない会話や観察につながっている。食卓や畳コーナーではテレビ観賞や笑い声などで賑わっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になりたい方の居場所は提供できている。 知合い同士隣席で座らせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇やテレビ、茶筆筒、筆筒、ベットや布団等使い慣れたものを持参している。手とり早く衣装ケースなど購入して持参される方もいらっしゃいます。	症状や希望により畳、ベッドを選択できるように配慮され、利用者は枕や時計、仏壇、テレビ、小ダンスなどを持ち込んでいる。車椅子、杖使用者別の表示、プライバシーを守るカーテンなど、安心・安全への配慮や工夫がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレが居室近くにあり、自分ですぐ行ける範囲であること。夜間は照明をつけて場所がわかる工夫。カーテン間仕切りであり、プライバシー保護しながら安全確認が行えている箇所もある。		